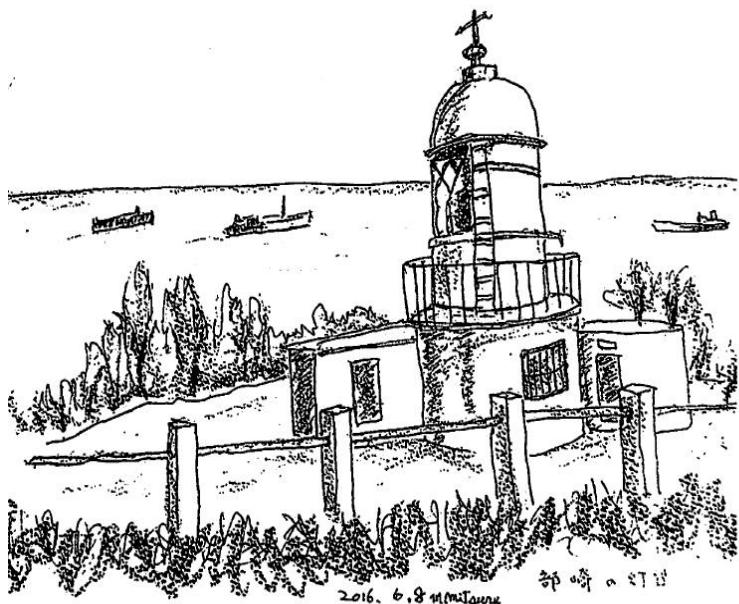


# 週報2021年3月14日



## 2021年教会標語聖句

見よ。わたしは新しい事をする。  
今、もうそれが起ころうとしている。

イザヤ書4章19節

シオン教会信仰指標：“イエス様と共に歩む”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



## 礼拝順序 2021年3月14日

ピアノ：赤松真佐子姉 オルガン：力丸勝子 師  
司会：吉田 到 兄 メッセージ：山崎銀次郎 牧師

開会の祈り

使徒信条・標語聖句唱和

賛美 新聖歌265「世人の咎のために」

\*今までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！\*

献身のお祈り（利光郁子 姉）

賛美 新聖歌113「君もそこにいたのか」

賛美コーラス16「マジエスティ」

聖書朗読 ヨハネによる福音書15章1-10節

説教題「キリストの弟子として実を結ぶ」

応答の祈り(皆で)

頌栄「主の祈り」

祝福と派遣の祈り

**交わりの三省**

- \*互いに愛し合っていますか
- \*互いに赦し合っていますか
- \*互いに祈りあってますか

# 説教要約

## ヨハネによる福音書15章1－10節 「キリストの弟子として実を結ぶ」

### ① 導入(クリスチャンとしての成長とは何か?)

私達は時々、クリスチャンとしての成長を考えます。つまり“イエス様を信じるようになって自分はどうくらい成長出来たか?”と考えるという事です。「全然自分は(クリスチャンになっても)変わっていない」という話をよく聞きます。今日、まず私達が考えたいことは“そもそもクリスチャンとしての成長とは何か?”です。言い換えると“どうなったら成長したクリスチャンなのか?”という事です。奉仕が出来たら、人を導けたら、品性が整えば…。ヨハネによる福音書15章はその問に対して答えを与えています。なぜならイエス様のぶどうの木のたとえ話は“キリストの弟子として実を結ぶ事”を教えているからです。

### ② 本論(キリストの弟子として実を結ぶ)

イエスの弟子ヨハネは「イエス様の弟子とは誰か?」と福音書の中で読み手に投げかけています。イエス様の弟子とは主イエスに従うと決心した人です。彼らがイエス様に会って、最初にした事はイエス様を追いかける事です。そこで彼らが知った事は“イエス様はとどまる神様”だという事です。つまり弟子たちと寝食を共にし、愛をもって接し続けて下さる事がわかったのです。そこでヨハネは弟子としてイエス様の愛にとどまる事を選びました。それはイエス様の目撃者としてイエス様の愛を証する人生を選ぶという意味です。イエス様の弟子とはイエス様の愛にとどまる人です。

今日の箇所で最も大切な言葉は“とどまる”という言葉です。イエス様は実際に15章1-10節の間に10回もこの言葉を使いました。“とどまる”という事は“神の愛に応える”という事です。その最も頂点にあるのが“十字架”です。神の意志(心)を反映し、人間に対する永遠の愛を十字架上で示されました。「わたしの愛にとどまりなさい」というイエス様の言葉は命令です。イエス様は新しい戒めを弟子たちに残しました。それは“とどまる”事は“神の愛に応える”事。そしてそれは“互いに愛し合う”という事です。ヨハネはこれらの言葉

をしっかりと書き留めました。そして読み手に投げかけています。そしてイエス様の弟子とは神の愛に応答し、隣人と愛し合う関係を築く人達の事です。

イエス様の「わたしはぶどうの木です」という言葉が私達に教えている事は“イエス様につながっていないと魂が枯れる”こと、そして“イエス様につながっていると豊かに(魂が)命の実を結ぶ”ということです。そして命の実を結ぶということは自らの事だけに留まらず、隣人の愛の関係に発展するとイエス様は言っています。これがクリスチャン(キリストの弟子)としての成長です。今日この箇所を通じて、私達に語られている事は、「キリストの弟子として今、何を追い求めているか?」です。神を追い求めるに、必ず神の愛(十字架)にたどり着きます。そして神の愛に応える生き方を追い求めるに、その友(隣人)を愛するか?という問いかけにたどり着きます。つまり神の愛を追い求めるという事は自らの犠牲を払って神の愛を選び取るという事です。キリストの弟子として、愛を選び取るものとなりましょう。

### ③ 結論(つながりを持ちたいと願う事から)

私達がクリスチャンとしての成長を考える時に、それを図る指針はどれだけ奉仕をしてきたか、どれだけの実績を残してきたかではありません。神様が望む関係をこの地上での歩みで一つ一つ築けているか?です。人は自分に良くしてくれる人には犠牲を払えますが、反対の人には一文たりとも払いいたいと思いません(参照マタイ5章43-48節、ローマ5章7節)イエス様は弟子たちが裏切る事を知っていたながら、それでも愛することを選びました。弟子達を友として扱い、永遠に“つながる”為にです。

私達が本当に成長を願うなら、イエス様が地上に来て下さった意味を日々深めていかなければなりません。その意味とは罪人がイエス様の愛を受け入れ、そして弟子とされた人々が隣人を愛する為です。それがイエス様の愛にとどまり、イエス様を証しするという事です。大切な事は私達につながってくれたイエス様を知る事です。その時、隣人に対して何かしらの方法でつながる方法が与えられます。愛の源泉は神様からです。共に主を見上げて前進してまいりましょう。